

10

社

說

## ○市会議員の道

○市會議員の道  
路意見

曲木如長氏　御承知の如く遠からず條約改正も完成を告げて内地難居となるが故に備は更ら此間決議せし如き僅な修繕費に止まらず東京市の道路全體の改良を計つて行かねばならん、けれども今日の如く道路の凹凸甚しく一雨あれば泥濘車輪を没すといふ現状なるにも拘らず年々姑息の修繕のみをなしで改善を爲さずんば内地難居の時となつても依然として足駄の必要を感じずるならん、國運はますへ進んで萬事順調活動速を尊ぶ世の中に悠々足駄を穿つて帝都の奥中を歩かねばならぬとは驚入つたる話なり斯くては靴の儘座敷に上るなぞと云ふなどは容易に出来ん巴里の如き道路の完全化して居る處ですら年々巨額の維持費を費すに非ずや巴里の總面積は七千四百五十ヘクタールにして道路の長さは六十八萬五千三百メートルなり之に對して市は年々幾許の道路費を投するかと云ふに其維持費は殆ど九百萬法に上り掃除、排水、除雪の費用すら四百萬法をするに非ずや、勿論巴里市の歳入は凡そ一億九千七百八十一萬餘なりと雖も道筋に費す費用は決して尠少なりとは云ふべからず、然るに東京市本年度の道路維持費は纔に八萬餘圓に止まれり、道路の相思を難するは寧ろ野暮かも知れぬ東京市の如き惡路を根本的改築をなさんとせば隨分巨額の費用を要するならんなぜれども此種樂置くべきにあらばそれ／＼方針を立て財源を見出して根本的改築の設計をなすは刻下の急務で當局者の方常に務むべき責任と思ふ此財源に就ては目下我々も研究中なるがゆゑ只今之をね話するよりは出來ませぬ立田彰信氏　御社の新聞に能くお書になる通り私は東京市内の惡路を此弊片時も棄棄てては東京市の面目に關するから一刻も早く修復せねばならんと主張する一人幸に道路修繕案可決の結果日本橋區長が其監督部長となり亦市參事會に於ても松田秀雄、安川繁成、山田忠兵衛、仁杉英の四氏主任となりて如何に修繕を加ふべしかが目下協議中なれども從來の修繕とは事變つて此度は工合攻克勾配を付けて水吐を便にし溝渠も亦排水を充分にし得らるゝやう直して掛る見込にて小破修繕の如きも一日と云はず即刻着手の手筈なれば斯くして念に念を加へて修繕を加へたらむには道路の面目を一新し得るならんと思ふ全く今日の如き惡路にては御社の御諭の通り市民の迷惑損害は幾許なるべきか樂置くならぬ次第、夫故道路は充分好くしたい決して今回の修繕に甘んずる譯ではない早晩根本的改築をなさるべきからずとは思考すれば併し今後續々各種の鐵道も敷設の事蹟は斯く實行せらるゝなれば若し今日に於て性急に道路の根本的改築をなさんとするは早きに夫して渠の改良も企畫せらるゝならん其他市區改正等凡そ此後世杜撰の跡わらひ故に私は先づ念に念を入れて現在の道路上に十二分の修繕を加へ餘に各種事業の設計と相俟て道路の根本的改築を企つるに非ずんば恐くは再び設計の仕直しをなさねばならぬやうの事なしとも謂ふべからず青石道路とか木道とかいふは可は可ならんなぜれども今日直に着手するといふは言ふべくして行ふべからざるの議論なるべし

○皇太子  
栗山へ行啓あらへ  
體溫全く平常  
へ増させられし  
り御席在の上は  
答と承はる

○仲裁  
布哇事件の仲裁  
英國と略ば内定  
に同國を指定し  
○高鷗大臣の  
午前十一時上野野  
よし

○乃木總督の  
午後零時三十分  
○臺灣鐵道と  
り柳橋鋪設機に  
び岡部、堀田兩  
上京中なる曾根  
他の各高等官一同  
其席にて左の如  
本日は臺灣鐵道  
藏り拙者も其光  
榮とする所  
對する將來の  
より會社創立  
擬臺灣鐵道敷  
計畫せられ居  
あるふとなら  
ときは遺憾な  
あらんと欲す  
種々の原因あ  
設に對しては  
て觀察を下す  
鐵道と完成し  
く臺灣鐵道は  
る機關たるみ  
りと信ず然ら  
するや頗る重  
重且大なる責  
悟あるか現今  
敷設に關する  
宛の補助費を  
引續き之に關  
く臺灣鐵道は  
る誰かるべし  
も廢疾ある患  
子なりと云は  
根を排斥して  
らるくなん  
周慎の治術を  
るふどを望む  
なればとて治  
は小は其患者  
成勿論之を大